

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上と学習習慣の確立を目指す。 学校の特色である国際理解教育をさらに深化させるための事業を推進する。 学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上と学習習慣の確立を目指す。 校内授業研修を通して、アクティブラーニングの視点を踏まえた授業の研修を推進する。 GTEC、Vocabulary contestにより英語力の伸長を図る。 英語検定試験の受検者数の増加を図る。 学校行事や生徒会活動により、自主的活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)EBS(朝の学習)の充実を図る。 (2)ALC(土曜講習)の定着を図る。 (3)「マイレージ通信」を発行し、生徒の学習意欲を喚起する。 (4)高大連携プログラムを推進し、自ら学ぶ態度を育成する。 (5)1学期、2学期の2回の授業研修を実施し、アクティブラーニングを取り入れた授業の研修を行う。 (6)GTECの活用や、Vocabulary contestの事前学習指導により、英語力向上を図る。 (7)広報等により実用英語技能検定試験の受検を推進する。 (8)体育祭、文化祭、球技大会等の準備・企画運営や参加を通して、生徒の自主性を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)実施回数、生徒の取り組み状況、内容を。 (2)実施回数、参加生徒数。 (3)発行回数、内容を。 (4)参加生徒数。履修状況。学習効果。 (5)職員アンケートの分析。 (6)GTEC450点以上の人数。 (7)英検準2級、2級の取得者数。 (8)体育祭実行委員など、各学校行事に関わる委員会を計画的に開催し、生徒が主体的に準備・企画運営ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)122回実施。社会科で時事問題を考えさせた。 (2)個々の先生方が朝補習や土曜講習を実施するが、参加者は少ない。 (3)4回発行。少し読み応えのある文章に触れる機会を増やした。 (4)4人受講。桜美林大学・本校で単位を認定した。 (5)1・3学期に校内授業研修を実施。アクティブラーニングを取り入れた授業展開の意識啓発ができた。 (6)高得点者枠のGTECも実施し、450点以上は68人 (7)英検受験者数で5割増を達成。取得者数準2級12人、2級6人 (8)生徒・職員間で課題を検討することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)生徒の学習への取り組みは良いので、各教科がマンネリ化しないように工夫し、継続していくことが大切である。 (2)体制作りを行い、計画的に補習の機会を設けて、参加者を増やしていきたい。 (3)先生方の幅広い教養を生徒に伝える良い機会である。教科書になり知識の伝達を心がけていきたい。 (4)大学からの情報を発信し、多くの生徒が大学の講座に興味を持つようにする。 (5)引き続き全職員がアクティブ・ラーニングを意識した授業作りに取り組むよう、意識を深化させ、校外研修会等への参加を促進する。 (6)継続実施 (7)引き続き生徒への受験を促す。 (8)生徒の主体性を養うことを継続しつつ、適切な方向に導くよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)教科書にあるような歴史的な事例ばかりでなく、現在を学ぶことができる。社会問題を学習し、自分の考えを持つ良い機会が、国際交流にもつながる。 (4)高校生が大学に講義を受講しに行くだけでなく、高校側に大学の講師を招くという体制も検討してほしい。 (5)アクティブ・ラーニングを取り入れることが難しい科目の対策が必要であり、本来、小学校の頃から取り入れるものであり、高校から根付かせるには工夫が必要である。 (5)外部講師を招いてアクティブ・ラーニングとは何かを学校全体で考える機会を設けてはどうか。 (8)体育祭時に地域の方々に文書を作成して挨拶運動を行ったのはとても良かった。今後は体育祭の招待状なども検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> EBS(朝の学習)に社会科が加わったことで家庭でニュース等に関心を持つ生徒が増え、課題等を課す教科が増え家庭学習の時間が増えてきているが、継続的な取組が課題である。 アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業を全職員で取り組み意識を深めることができたが、科目によってばらつきが出ている。 GTECで高得点枠で実施することで生徒の英語力の伸長を図ることができた。また英検受験者で5割増を達成できたが、受験者数としてまだ少ない。 体育祭、文化祭などの学校行事が生徒を中心に運営されている。今後については楽しさの追求に加え、生きる力を身につけさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科での共通した課題作成や共通テストの拡充をはかるとともに授業改善の取り組み。 2回の校内研修や外部講師による研修等の検討を行いアクティブ・ラーニングの更なる深化をめざす。 ALTの教科による効果的な授業づくりを検討し英語による授業の割合を増やし実用英語技能検定試験の準2級合格者を増やす。Vocabulary contestの事前学習指導をすすめる。 体育祭や文化祭などの生徒会行事の中心になる生徒への助言指導をこまめに行い、多くの生徒が主体的に生徒会行事に参加し、課題意識を持たせ、解決に取り組ませる。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々に応じた、支援体制の充実を図る。 生徒の規範意識の醸成を図る。 部活動の活性化を通して責任感や連帯感、感謝の気持ちの涵養を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生対象の多文化教室による学習支援、生徒支援体制を充実させる。 生徒個々に応じた様々な支援体制の充実を図る。 生徒の規範意識の醸成に努める。 部活動の活性化に努め、責任感の涵養を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)多文化教育コーディネーターと本校教員による支援を充実させる。 (2)教育相談コーディネーターを中心にSCとの連携を深め、相談窓口の円滑な運営を図る。 (3)生徒指導週間や学年集会などで、基本的生活習慣の確立を図る。 (4)部活動加入率の向上を目指す。部長会や部活動集会により、責任感を育 	<ul style="list-style-type: none"> (1)生徒アンケートの分析。 (2)スクールカウンセラーや保健室の利用状況。 (3)生徒の学校生活の状況。 (4)1年生の部活動加入率。部長会や部活動集会を必要に応じて行い、部員の規範意識や責任感が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)多文化コーディネーターを中心に学習支援員・就労支援員を加え支援を充実させた。 (2)SCの利用者は増加。SSWを活用し外部との連携を図った。 (3)生徒指導週間、学年集会、LHRなどで生徒の規範意識の定着を図った。 (4)部活動加入率の向上について検討し、部長会・部 	<ul style="list-style-type: none"> (1)人材確保のために、現在の予算措置が継続されるように要望。 (2)保護者が中々外部との連携を積極的に取ろうとしないので、さらにSSWの活用を目指す。 (3)今年度は新たにSNSで「なりすましアカウント」が発生した。警察と連携を密にして対応していく必要がある。 (4)加入率が向上した場合の安全確保や運営方法について検討する必 	<ul style="list-style-type: none"> (2)SCだけでは家庭環境にあまり介入できなかったが、SSWは環境にも通じるため、より生徒の支援を徹底できる。 また、外部の機関との連携もしやすくなり、環境改善に繋がる。 (4)挨拶が盛んであり、いつも良い印象を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国につながる生徒に対し多文化コーディネーターを中心に学習・就労支援員を複数配置して手厚い支援ができた。また支援を要する生徒に対し教育相談コーディネーターを中心にSCと連携しながらケースに応じてSSWにも支援を要請することができた。 多くの生徒の規範意識の定着を図れたが、SNS上のトラブルが起きた。 他者理解や連帯感を 	<ul style="list-style-type: none"> 外国につながる生徒に対し多文化教室における日本語支援用教材を作成する。 支援を要する生徒の情報を共有する組織的な会議を定期的に行い支援を早期に行う。 外部機関との連携を図り生徒の規範意識の定着を継続的に言い、全校集会を定期的開催する。

				成 す る 。		活動集会を学期に一度実施し、規範意識や責任感を高めた。	要がある。部長会・部活動集会は機能しているが、生徒が主体的に運営していくことを検討する。		深めることができたが感謝の気持ちに改善の余地がある。	・部長会や部活動集会を活用し部活動の活性化を図る。
3	進路指導・支援	生徒の自主・自律の精神の涵養を図り、卒業後の希望進路実現に向けて、積極的に社会参加するための能力と態度を育成する。	・個々の進路希望の実現に向けての進路指導を行う。 ・計画的なキャリア教育の実現をめざす。	(1)年間指導計画にもとづく計画的進路ガイダンスを展開する。 (2)インターンシップ教育の推進。 (3)各学年での進路選択のための講演会等の実施。 (4)学力診断テストの実施、結果分析及び計画の見直し。外部業者の模擬試験の斡旋により適性を判断させる。 (5)面談等による細やかな進路指導。	(1)卒業時の進路実績。 (2)インターンシップ参加者数。 (3)アンケートによる生徒の満足度。 (4)模試の受験者数。 (5)生徒からの相談実績。	(1)今年度の進路実績は現在集計中。 (2)24名が参加 (3)説明や体験ができてよかったという意見が多い。 (4)受験者(延べ人数)1年69人2年52人3年90人 (5)面談週間やLHRで全生徒と二者及び三者面談を実施。	(1)実績でここ数年と比較し、傾向分析と今後の進路指導を検討を要す。 (2)生徒の希望に合う事業所の選定。 (3)生徒の進路希望に合う上級学校への依頼。 (4)模試への意識づけと校内模試以外の模試の案内。 (5)きめ細かい指導のための面談実施期間の確保。	(2)負担が増えると本末転倒であるが、インターンシップ後の報告会ができると更に良い。	・個々の進路希望実現のための業者模試を校内で実施、および模擬面接指導などを組織的におこなった。データの活用に関しては検討が必要である。 ・将来の職業理解や選択のためのインターンシップの業種を広げることができたが受け入れ企業とのトラブルが起きた。	・業者テストの効果の検証やデータの活用法の検討を行う。 ・インターンシップの広報の仕方の改善及び事前指導・事後指導の在り方の検討を行う。
4	地域等との協働	積極的な情報発信や貢献活動を展開し、保護者や地域の期待に応えとともに、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。	・積極的な情報発信を行う。 ・保護者や地域と連携した活動の推進 ・貢献活動により、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。	(1)学校説明会、授業参観、ホームページを活用した情報発信。 (2)PTAや警察と連携した交通安全指導、地域における各種活動への生徒の参加。 (3)部活動や委員会の活動を、地域や行政機関と連携して行い、本校の取り組みを理解してもらう。	(1)学校説明会などへの参加者数、ホームページの更新回数等。 (2)生徒が参加した活動の数、参加した生徒数等。 (3)部活動や委員会活動で、地域や行政機関の要請を検討し、連携して取り組んだ内容及び回数。	(1)学校説明会等への参加者数は合計でのべ2,122人。授業参観への参加状況は、保護者、中学生等合計344人で、中学生の参加も多かった。HPの更新を頻繁に行った。 (2)全生徒により地域の清掃活動を実施した。 (3)福祉委員を中心にのべ約100人の生徒が七夕祭りや地域の防災訓練に参加した。要請を積極的に検討し警察署主催の行事等に参加した。	(1)情報発信は十分に機能していると考えられる。国際理解教育の推進、武道教育といった特色は地域等に十分に認識されてきている。 (2)地域貢献活動については、目的や実施内容の見直しを行い、生徒にとっても地域にとっても意義のある活動としていきたい。 (3)地域連携をねらいとしたボランティア活動という点においては概ね良好と考えられる。今後はこれらの活動が本校理解の深化へと繋がることが期待される。	(1)生徒からの「学校紹介」では部活動や行事だけでなく、授業についても触れるべき。 (2)制服を買えない生徒のために、PTAでの制服寄付の呼びかけを積極的に行ってほしい。 (3)地域との関わり方を議論する場を自治会が主催しているが、そこには生徒が参加することは可能か。	・積極的にHPに学校の取組状況を発信し学校説明会の来場者増加につなげた。 ・全校生徒による地域の清掃活動を実施し、地域のイベントや防災の訓練等にも参加することで地域とのつながりを深めることができた。 ・学校説明会の内容や説明の仕方等の検討を行う。 ・地域貢献活動に関し自治会等に生徒が参加するとともに生徒の自主的な関わり方を模索する。	
5	学校管理 学校運営	・教職員の資質能力、専門性の向上を図る。 ・事故・不祥事防止と危機管理意識を高め、安全で安心できる教育環境の整備を推進する。	・生徒の防災意識の向上に努める。 ・教育環境の整備を推進する。 ・学力向上に貢献する読書活動の推進を目指す。 ・ナレッジマネジメントの構築のためのインフラ整備を行う。 ・安全・安心の教育環境づくりを推進する。	(1)防災訓練、シェイクアウトなどで自ら身を守る方策をとらせる。 (2)清掃の励行。 (3)学校図書における生徒の読書環境を整備する。 (4)知識共有のためのファイル管理をすすめ、作業の効率化、可視化をすすめる。 (5)不祥事防止に向けて、タイムリーな情報提供、教員主導の事故防止会議の開催。 (6)学校評議員会等からの意見聴取。	(1)訓練の状況等。 (2)清掃点検等。 (3)授業、生徒の利用状況など。 (4)ファイル管理の進捗状況。 (5)不祥事防止に向けての教員相互の注意喚起による状況の変化。 (6)具体的な意見聴取、学校への提言。	(1)防災訓練では防災委員が活躍した。また、地域の防災訓練で地域からの信頼を得た。 (2)点検を定期的に行なった。美化委員がポスターを製作、掲示し美化の推進につとめた。 (3)学校図書館の環境を整備し授業利用が増えた。 (4)グループの起案文書のファイル管理は達成できた。 (5)事故防止会議を各グループで実施した。 (6)学校評議員会やPTAから改善につながる意見を聴取できた。	(1)防災の意識をさらに生徒へ浸透することが必要。 (2)美化委員が中心となり、美化活動のさらなる推進に努める。 (3)生徒への読書への興味づけ、多読の習慣を推進したい。 (4)電子データの管理や教科のファイル管理をすすめる。 (5)事故防止会議が形骸化しないよう改善に努める。 (6)学校評議員等への情報提供の改善。	(4)ファイル管理を行い、知識を共有化し、作業の効率化、可視化をすすめることは大切であり、良い取組だ。電子データの管理はファイル名の付け方にルールを作ると良い。	・本校職員による「東日本地震と津波」をテーマとした講演会を開催し、生徒の防災意識を深められたが、防災訓練についてさらに見直しが必要である。 ・清掃等が行われているが施設等の老朽化が目立つ。 ・広報活動や生徒の希望を反映した新規図書の購入により利用状況が良くなったが、多読の習慣については継続し取組む必要がある。 ・報告文書のファイル管理は進んだが電子情報の管理、教科等の管理は不十分であった。 ・グループによる校内研修を行い現場に即した注意喚起ができた。	・DIG訓練などを取り入れた防災訓練の検討をする。 ・新まなびや計画に基づきトイレ整備を行う。 ・授業との連携をさらに推進する。 ・電子情報のファイル管理が行えるようなシステムの構築を図る ・校内研修を若手教諭を講師にして実施する